特集　千葉県自動車流通

千葉県の2026年度後半の自動車流通は底堅い需要に支えられて推移しそうだ。相次ぐ降雨災害による県民生活への影響は払い切れていないものの、今年４～９月の新車販売は上期としては３年ぶりに前年同期を上回るなど、手堅く推移している。年度後半の県内業界は、不透明感を依然抱えながらも、新車、中古車、整備需要ともに堅調さが期待されている。

新車需要　当面は堅調見通し

相次ぐ豪雨被害　なお生活に影響残る中で

上期は3年ぶりのプラス


堅調な足取りで前半を折り返した後半の需要にも期待がかかる千葉県市場。

千葉県は歴史的に大災害が少ない県といわれてきた。だが今年は、「令和8年8月千葉豪雨」や台風25号などが連続して発生。9月の千葉市中心部の降水量は平年値の2・8倍となる771㍉に達し、県全体で冠水の被害を受けたクルマは8月28日時点の車両保険支払い分だけで1万918件に上っている。

県内の自動車業界も一部の店舗や工場が浸水に見舞われたが、「幸いにも全壊や半壊などの被害は起きなかった」（自動車団体関係者）ことで、その後の被災車両の受け入れやお客への対応に支障をきたすケースは限定的だった。

県内では、現在も一部鉄道区間の運休や道路の通行止めが続くほか、観光シーズンの行楽地や収穫期を迎えた農産物への被害など、今後の県民生活や経済への影響が懸念されている。

自動車業界の内部からも「クルマや住宅に被害がなくても、購買意欲への心理的な影響を心配している」（県内新車ディーラー）との声がある。ただ足元の需要は底堅く推移しており、「今の流れは当面続くのではないか」（同）との見方が強い。

県内の新車販売は、今年9月までに登録車が6カ月連続、軽自動車が2カ月連続で前年実績を上回っている。これにより今年4～9月の販売実績は、登録車が前年同期比12・8％増の7万256台、軽自動車が同2・1％増の3万3007台と、ともに増加した。

登録車と軽自動車を合わせた総市場は同9・2％増の10万3263台となり、上期としては3年ぶりのプラスに転じた。上期の総台数が10万台を超えたのは、19年度上期の11万3522台以来、実に7年ぶりのこと。コロナ禍による需要減、半導体不足や認証不正問題などの外的要因に悩まされてきた市場にとって、ようやく需要回復の足音が聞こえ始めた格好だ。

一部の系列では車種による受注停止や配車制限が見られるものの、新型車の投入による拡販ムードを取り戻す系列もあり、今後の販売に明るさが広がっている。新車と中古車とも、水災による買い替え需要が今後どの程度発生するかはともかく、基調としての販売や整備入庫の手ごたえが、より確実になることに寄せる期待は高い。


不通区間の復旧工事も急ピッチで進む

新型車効果　高まる回復ムード

OBD制度や新技術　積極的に情報提供

千葉県自動車整備振興会　秋葉　邦男会長

わが国経済は、賃上げの継続や設備投資の増加などにより緩やかな回復が期待される一方、物価上昇や人手不足の常態化、地政学的リスクなど、先行きには依然として不透明感が残っています。



自動車整備業界においても、整備需要の基盤となる自動車保有台数は、千葉県内では現在ほぼ横ばいで推移しているものの、少子高齢化や人口減少などを背景に、今後は減少に転じることが予想されています。また、整備士不足や高齢化、後継者問題なども引き続き重要な課題となっています。

加えて、車両の電動化や先進安全技術の進展に伴い、OBD検査や電子制御装置整備など、高度化する自動車技術への対応が求められています。さらに、自動車関連行政手続きについては、国土交通省によるデジタル化・キャッシュレス化への移行が2028年1月に予定されており、業界を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした状況を踏まえ、当会では、OBD検査をはじめとする制度への対応や新技術に関する研修・情報提供を充実させ、会員事業場の技術力向上を支援してまいります。また、国土交通省が進める自動車関連行政手続きのDX化についても、制度や運用の調査・研究を進め、会員への情報提供・周知を積極的に行い、円滑な移行と業務効率化につなげてまいります。

人材確保・育成については、高校などへの整備士PRや「カンドゥー幕張」での職業体験事業を継続し、自動車整備の仕事の魅力を幅広い世代に発信するとともに、将来の担い手の確保に努めます。さらに、自動車使用者に対しては、広報活動や点検フェスティバルなどを通じ、定期点検整備の重要性を広く周知し、実施率の向上に取り組んでまいります。

自動車整備業界は大きな変革期を迎えています。当会は、こうした環境変化を的確に捉え、会員の皆さまとともに技術力の向上、人材育成、DXへの対応を進め、安全・安心な自動車社会を支えるとともに、将来にわたり持続可能な整備業界の確立を目指してまいります。

関東運輸局　千葉運輸支局長

加藤　幸生支局長

対応協力　積極的に推進



「令和8年8月千葉豪雨」および台風25号により犠牲になられた方々とそのご遺族に対し深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

今回の豪雨及び台風では千葉県内各地で路面冠水による車両故障が多発したほか、ナンバープレートの流失や紛失、車検証の冠水によるICチップの破損など、さまざまな問題が発生しました。現在、被災車両の解体作業が始まっていますが、その数の多さから、処理には年末まで要すると見込まれています。千葉運輸支局といたしましても、引き続き積極的に協力を推進してまいります。

自動車登録関係につきましては「自動車保有関係手続のワンストップサービス（OSS）」の利用が着実に増加しています。本年8月時点で、当支局管内における新車新規OSS利用率は66・65％であり、全国平均の65・95％を上回りました。規制改革実施計画に基づき、OSSの利用促進や電子車検証の活用を進めることは、申請に伴う移動負担や待ち時間を削減し、業界全体の生産性向上につながる重要な取り組みです。今後も、利用者目線に立った利便性の高い行政サービスの実現を目指し、実効性のある施策を迅速かつ着実に展開してまいります。

自動車整備関係につきましては、本年4月より11の手続きがオンライン申請に対応し、来年度からは段階的に自動車整備に関する研修などをオンラインへ移行するものとしています。加えて、令和10年のシステム更改では、記録等事務代行制度を利用した継続検査の平日夕方や土日祝日の審査対応、持込継続検査のドライブスルー方式の導入など検査窓口の完全ペーパーレス・キャッシュレス化を実現する予定です。

今後も千葉運輸支局におきましては、検査登録手続のデジタル化の促進、人材確保への取組など、関係機関・団体などと連携を図り業務を遂行してまいります。引き続き、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

みなさまの素敵なカーライフを最幸のサービスでサポート！



千葉トヨペット株式会社
〒261-8585　千葉市美浜区稲毛海岸 4-5-1
営業時間 / AM 10:00 ～ PM 6:00
お客様相談 テレフォン（本社）　0120-161672（イロイロナーニ）
ホームページはコチラから
定休日/ 毎週月曜日（祝日の場合は翌火曜日）左記以外の定休日もございます。詳しくはホームページの「営業日カレンダー」をご確認ください



千葉日産自動車
■本社　〒260-0001 千葉市中央区都町3-2-2　■お客様相談窓口 0120-235-423
千葉日産　検索　https://ni-chiba.nissan-dealer.jp/

日産プリンス千葉
■本社　〒260-0001 千葉市中央区都町3-2-2　■お客様相談窓口 0120-098-623
プリンス千葉　検索　https://np-chiba.nissan-dealer.jp/

日産サティオ千葉
■本社　〒261-8532 千葉市美浜区稲毛海岸2-1-21　■お客様相談窓口 0120-092-332
サティオ千葉　検索　https://ns-chiba.nissan-dealer.jp/

県内自動車関連団体トップの声

市民生活の足として軽の魅力を広く訴え

千葉県軽自動車協会
大木 康正会長



本年の日本経済は、収束の見えない中東情勢などによる国内外の経済への影響などが続いています。一方、国内では、降雨が少なく渇水が心配される地域も見受けられる一方、千葉県では8月の豪雨や台風による浸水被害が発生するなど、経済活動や市民生活に大きな影響が出ております。

そのような中、国内の2026年上期の軽自動車の販売台数は、全国では対前年同期比1・31%増の約85万7千台、千葉県においても3・4%増の約3万5千台と昨年同期から回復基調となっております。

当協会は、毎年11月上旬に開催される「千葉湊大漁まつり～千葉市民産業まつり～」に「軽自動車まつり」として参加し、新型車や福祉車両などを一堂に展示するとともに、交通事故防止や事故時の被害軽減対策に有効とされる衝突被害軽減ブレーキ搭載車の体験乗車を行うなど、軽自動車の魅力や安全性を多くの方々に感じていただけるよう準備を進めております。

軽自動車税につきましては、課税の仕組みなど自動車関係諸税の見直しについての議論がなされております。経済活動や市民生活になくてはならない日常の足となっている軽自動車の役割や貢献について、関係者の理解を深め軽自動車や二輪車ユーザーの税負担が増えないよう活動してまいります。

交通安全につきましては、自動車ユーザーに接する機会の多い会員ディーラーのスタッフを通じ、交通事故の状況などの周知に努め、交通事故の削減に取り組んでまいります。

さらに流通改善対策や保管場所の適正化に引き続き取り組むなど、販売業界の責任ある立場として協会の使命である健全・円滑な流通社会の形成に努めてまいります。

スマホアプリの普及進め利用者に「安心」

日本自動車連盟 千葉支部
豊永 裕次支部長



千葉県の在籍会員数は今年8月末現在90万1973人で、今年度期首から8270人の増加となりました。1966年10月にJAF千葉支部が設置されてから、ちょうど60年の節目に在籍会員数90万人の大台に到達しました。引き続き会員の継続率を上げるための「入会時同時自動振替」と「JAFスマートフォンアプリ登録」の取り組みに努めてまいります。

JAFスマートフォンアプリは、ロードサービス救援要請時、千葉豪雨の際のように電話がつながりにくい場合でも受け付けされ、お客さまに安心感を与えられます。万が一のトラブルの際に安心・安全なカーライフを過ごしていただけるよう、普及を強化します。

ロードサービス部門では、8月13日に発生した「令和8年8月千葉豪雨」で一時は2千人を超えるお客さまにお待ちいただく事態となりましたが、全国から176人の特別支援隊と17社19人の指定工場応援隊に支援をいただくことで、8月30日には収束することができました。

これからも現場到着時間の短縮を図るとともに、職員に対する訓練および指定工場従事者に対する技能試験などを通じて高品質なサービス提供に努めます。

交通安全部門では、地域の交通課題に対する取り組みを展開してまいります。昨年度の信号機のない横断歩道における一時停止率の調査で、千葉県は48・4%と全国平均の56・7%を下回っており、この状況を改善するため、交通安全運動期間に、支部主催の交通安全イベントや街頭活動を実施していきます。

会員事業部門では、質の高い体験を提供することで、JAF会員であることの価値を見出していただくとともに、優待サービスの拡大を図ってまいります。

今後も「安全と安心の支えとなるサービスを提供し、移動価値が高い社会の実現を目指す」という基本理念のもと、皆さまに満足いただける価値あるサービスの提供や社会貢献活動に努めてまいります。引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社シュテルン千葉
メルセデス・ベンツ正規販売店

株式会社千葉マツダ

大木自動車株式会社
フォルクスワーゲン正規販売店

マツダ部品千葉販売株式会社

CMG HOLDINGS

カーセブン柏6号店

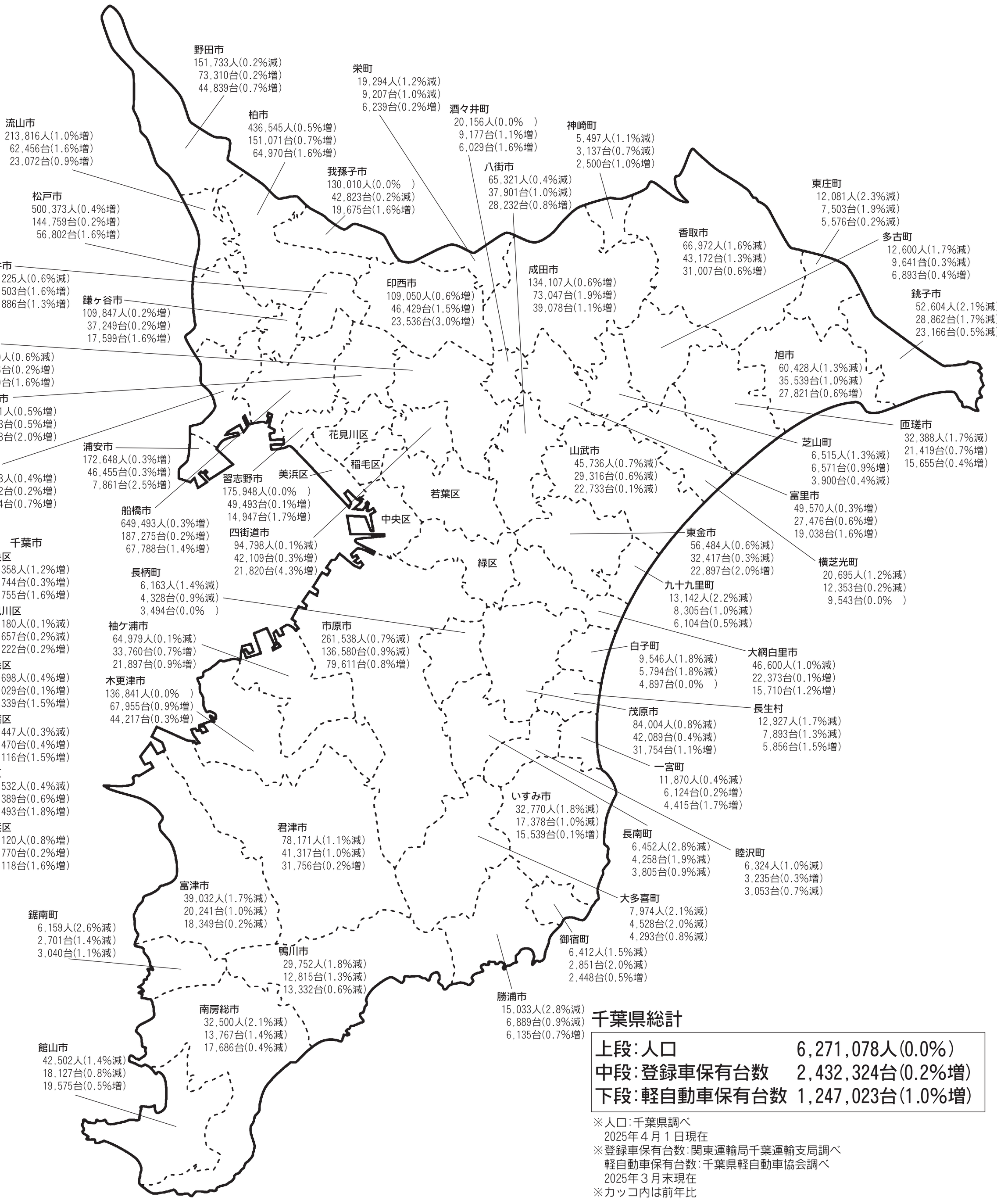
私たちはカーライフを通じて夢・感動・笑顔を
お客様、地域と一緒に創りあげていきます

有限会社
みすみ鈑金塗装工業

本社：千葉市稲毛区長沼町333-3
代表取締役社長　大木 康正

株式会社ビーアイエー
マツダオートザム正規販売店

千葉県 市町村別人口と自動車保有台数



千葉県総計

上段:人口	6,271,078人(0.0%)
中段:登録車保有台数	2,432,324台(0.2%増)
下段:軽自動車保有台数	1,247,023台(1.0%増)

※人口:千葉県調べ
2025年４月１日現在
※登録車保有台数:関東運輸局千葉運輸支局調べ
軽自動車保有台数:千葉県軽自動車協会調べ
2025年３月末現在
※カッコ内は前年比